

「問いのコミュニティ」開設の背景 II | 文明社会編

一人の判断は時に重く、時にささやかに見えるが、
何百、何万、何千万という判断が積み重なると、

市場になり、
法になり、
教育になり、
人工知能の学習データになり、
文化になり、

最終的に文明になる。

つまり、
文明とは、判断の堆積です。

「判断の堆積」は、
ともすれば過去が未来を一方向に規定する図式
として読まれる。

しかし、ここでいう「堆積」は、
判断が連続的かつ直線的に積み重なることを意味しません。

文明の形成には、判断の反復や継承とともに、
断絶、攪乱、侵食、再配置、非連続的な変化が含まれます。

地層が、隆起、侵食、再堆積、断層化を経て形づくられるように、
文明もまた、過去の判断が保存される過程と、
変形され、失われ、組み替えられる過程とを通じて形成される。

したがって、「判断の堆積」とは、
累積的・直線的な歴史観を指すものでも、
その反対に、非連続性のみを強調する歴史観を指すものでもない。
連続変化と非連続変化の双方を内包した形成プロセスを指している。

その上で、文明と判断のあいだに生じる運動を素描する。

- a. 文明は、判断の歴史的な堆積である。
- b. 人間は、その文明のなかで判断を学び、行為を重ねる。
- c. その判断は、ことばや記号によって方向づけられる。
- d. その積み重ねが、新たな文明を形成する。
- e. その文明が、次の世代の人類の条件になる。

「問いのコミュニティ」は、
このうち c. に焦点を当てています。

ただし、ことばや記号を単独で扱っているわけではありません。
a. から e. へと続くダイナミクスの中に、c. を位置づけています。

このことから、「問いのコミュニティ」が扱う基本的設問は、
大きく言えば、以下の二つです：

(1) 文明のなかで、判断がどのように形成されるか

ここでは、文明を、人間・機械・自然の相互作用によって形成される環境として捉えます。
そのなかで、人類の諸活動で起きている判断形成の機構を見ていきます。

(2) 日々の実践の場で、ことばは、どのように判断を形成するか

職務／生活／個人単位の判断もまた、ここでは重視されます。
(1) と (2) は切り離せないからです。

「問いのコミュニティ」で取りあげていることを慎重に、
しかし一言でいえば、

文明社会における判断形成のエコロジー

です。

Ecology という以上、一人ひとりの人間もまた、
判断の連鎖や判断の生態系に作用し、影響を受けます。

だからここでは、文明社会における判断形成の動態を見ながら、
日々の場で使われる一つひとつのことばにも目を向けます。

この双方を扱う場として、「問いのコミュニティ」は開かれています。

本制作物は、閲覧・保存・印刷・共有いただけます。

ただし、文章・構成・図版を、出典を示さずに転載・改変・転用することはお控えください。